

米軍基地環境カルテ

嘉手納弾薬庫地区（施設番号：FAC6022）

沖 縄 県

改訂履歴

版数	発行年月	改訂内容
第1版	平成29年3月	初版発行
第2版	令和4年3月	「沖縄の米軍基地（平成30年12月沖縄県）」及び防衛省・自衛隊ホームページ「在日米軍施設・区域別一覧（令和2年3月31日現在）」の内容を反映させた改訂。

年月日	頁	該当箇所	追補・変更内容
令和2年 3月20日	20-13	20.6 その他情報	表 20-5、年月日『1957年5月11日』の項目の次に沖縄県が米国立公文書記録管理局(NARA)で収集した『1969年12月1日』の項目を追加
令和3年 3月30日	20-13	20.6 その他情報	<p>表 20-5、年月日『1957年5月11日』の項目の次に沖縄県が米国立公文書記録管理局(NARA)で収集した『1969年8月18日』の項目を追加</p> <p>年月日『1971年7月12日、7月15日、7月16日、7月17日、9月7日』の次に沖縄県が米国立公文書記録管理局(NARA)で収集した『1971年7月13日』の項目を追加</p> <p>年月日『1970年5月』の項目の次に沖縄県が米国立公文書記録管理局(NARA)で収集した『1991年3月22日』の項目を追加</p>

目次

20. 嘉手納弾薬庫地区（施設番号：FAC6022）	1
20.1 基本情報	1
20.1.1 名称	1
20.1.2 所在地、広さ（施設面積）	1
20.1.3 施設の概要等	3
20.1.4 施設の管理及び用途	3
20.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況	4
20.1.6 土地利用規制図	4
20.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報	5
20.2.1 基地等の土地の状況	5
20.2.1.1 地形分類図	5
20.2.1.2 表層地質図	5
20.2.1.3 土壌図	5
20.2.1.4 切盛土分布図	5
20.2.2 基地内の施設の使用状況	5
20.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）	5
20.2.2.2 施設等使用履歴	5
20.3 基地等の環境状況	7
20.3.1 自然環境（植物）	7
20.3.1.1 現存植生図	7
20.3.1.2 植生自然度図	7
20.3.1.3 特定植物群落	7
20.3.1.4 重要な種、貴重な種等	9
20.3.2 自然環境（動物）	9
20.3.2.1 重要な種、貴重な種等	9
20.3.3 水利用状況	9
20.3.3.1 水利用状況	9
20.3.3.2 井戸・湧水の分布状況	10
20.3.3.3 河川及びダムの分布状況	11
20.3.4 地下水の状況	12
20.3.4.1 地下水基盤面等高線図	12
20.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等	12
20.4.1 事故等の概要	12
20.4.2 事故等発生場所	13
20.5 環境調査を実施する場合の留意事項	13
20.6 その他情報	14

20.7 環境等に関する通常監視について	15
----------------------------	----

20. 嘉手納弾薬庫地区（施設番号：FAC6022）

20.1 基本情報

20.1.1 名称

嘉手納弾薬庫地区（施設番号：FAC6022）

20.1.2 所在地、広さ（施設面積）

<昭和47年5月15日>

所在地：恩納村、嘉手納村、読谷村、美里村、石川市、具志川市、コザ市

広 さ：約31,763千㎡

出典：外務省ホームページ「沖縄の施設・区域（5・15メモ等）（仮訳）」（1972年5月）

（http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/sfa/kyoutei/pdfs/02_03.pdf）を参照

<平成30年12月末現在>

所在地：沖縄市（字白川、字御殿敷、字倉敷、字知花、字大工廻、字宇久田）

うるま市（字栄野比、石川山城、石川楚南）

国頭郡恩納村（字真栄田、字山田）

中頭郡読谷村（字喜名、字座喜味、字長浜、字長田、字親志、字牧原、字大湾、
字伊良皆、字比謝）

〃 嘉手納町（字久得）

広 さ：26,584千㎡（令和2年3月31日現在）

地主数：4,714人

駐留軍従業員数：291人

出典：防衛省・自衛隊ホームページ「在日米軍施設・区域別一覧（令和2年3月31日現在）」

（https://www.mod.go.jp/j/approach/zaibeigun/us_sisetsu/pdf/ichiran_r020331.pdf）及び「沖縄の米軍基地」（平成30年12月、沖縄県知事公室基地対策課）より引用

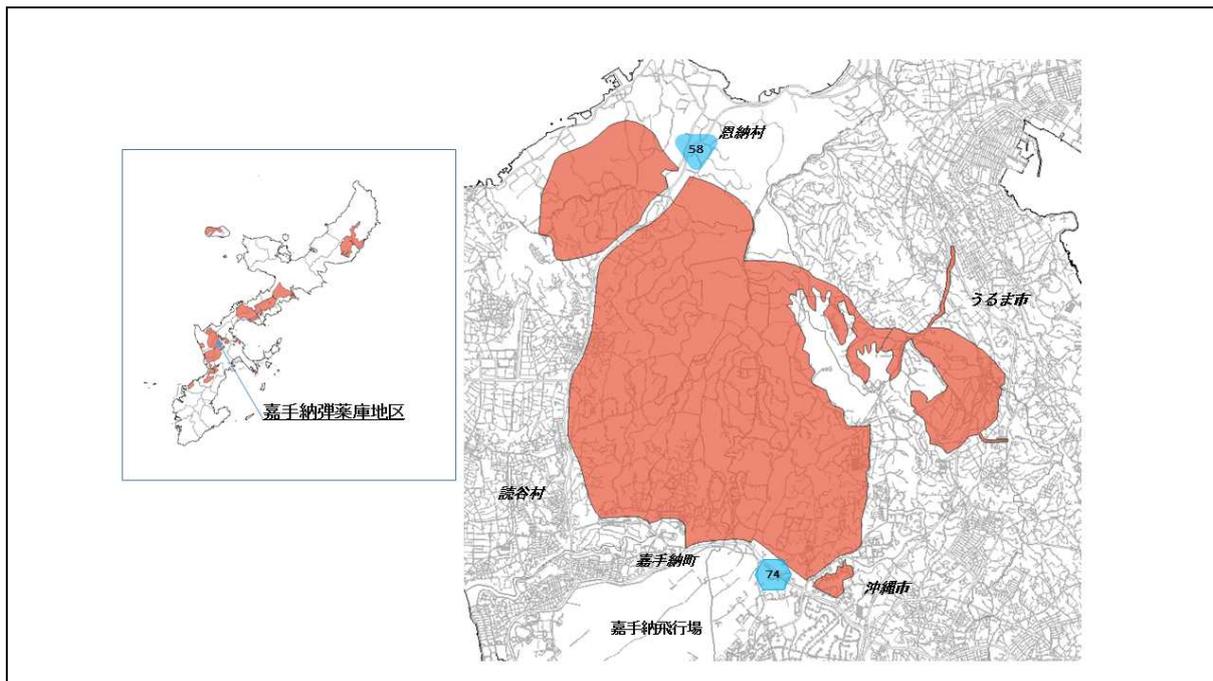


図 20-1 嘉手納弾薬庫地区の位置図（平成 28 年時）

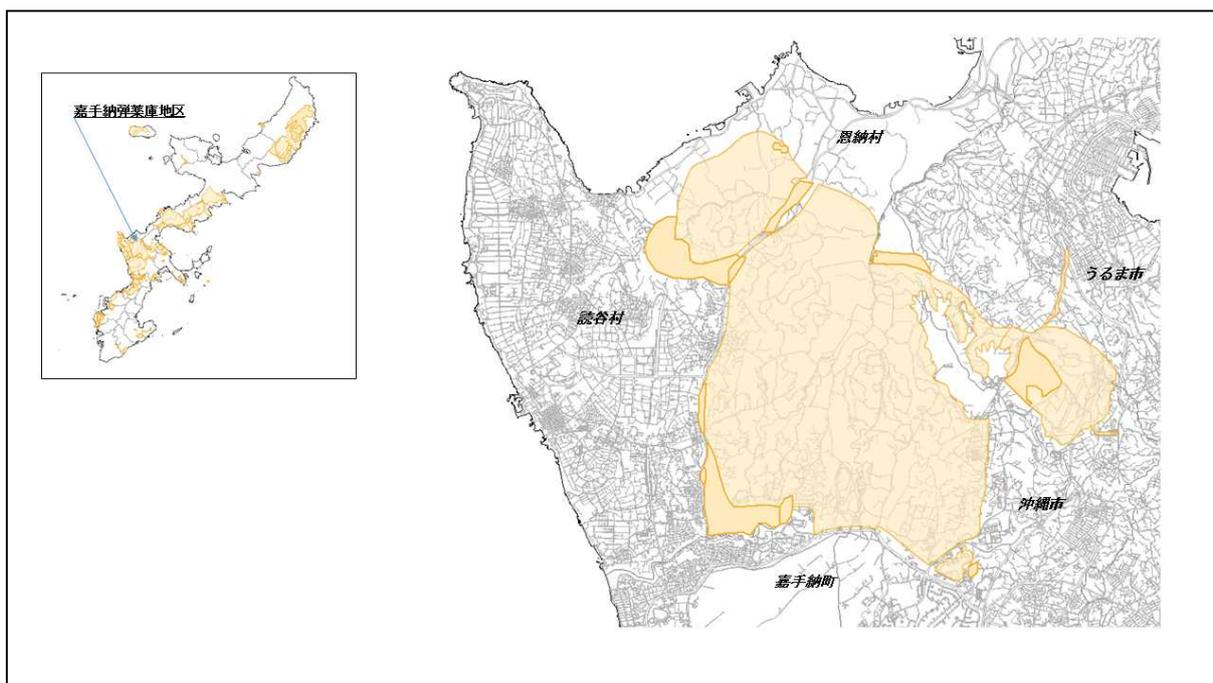


図 20-2 嘉手納弾薬庫地区の位置図（昭和 47 年時）



出典：「沖縄の米軍基地」（平成 25 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）より引用

図 20-3 嘉手納弾薬庫地区の航空写真

20.1.3 施設の概要等

施設の現状及び任務

嘉手納弾薬庫地区は、嘉手納飛行場に隣接する広大な森林地帯に位置し、施設内には森林地帯の中に覆土式、上屋式、野積式など多数の弾薬庫や弾薬補修工場、検査室、弾薬処理場、管理事務所等があるほか、ゴルフ場や県道 26 号線の南東部分には住宅地区が所在している。

この施設は、空軍及び海兵隊が共同で管理しているが、主要部隊は第 18 航空団第 18 整備群の第 18 弾薬中隊で、沖縄に駐留する米軍のみならず、太平洋地域の部隊が使用する弾薬類の貯蔵、整備を行っている。また、平成 18 年末に、米軍のペトリオット・ミサイルが配備されて運用を開始しているほか、シルバー・フラッグ・サイトと呼ばれる訓練施設でエクスプローセブ・シミュレーター（模擬爆発装置）と水蒸気を使用した基地修復訓練が実施されている。

同施設内には、保安林、倉敷ダムなど県の財産が存在しており、それらの土地も米側に提供されている。

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 30 年 12 月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

20.1.4 施設の管理及び用途

管理部隊名：第 18 航空団第 18 任務支援群司令部（空軍地区）、在沖縄海兵隊キャンプ・バトラー基地司令部（海兵隊地区）

使用部隊名：第 18 航空団第 18 整備群第 18 弾薬中隊・第 18 整備中隊、米軍運輸管理部隊（陸軍）、米国運輸管理部隊（陸軍）、国防兵站局エネルギー部門、海軍兵器部

使用主目的：弾薬庫

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 30 年 12 月、沖縄県知事公室基地対策課）より引用

20.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況

<返還計画>

嘉手納弾薬庫地区については、平成2年6月19日の日米合同委員会でいわゆる23事案の一部として、約187ヘクタールが返還に向けて手続きを進めることが合意された。このうち、嘉手納バイパス部分、国道58号沿い東部分、南西隅部分の約77ヘクタールが平成11年3月に返還された。

旧東恩納弾薬庫地区については、キャンプ瑞慶覧の泡瀬ゴルフ場の移設先とされ、新ゴルフ場以外の土地については、返還されることが合意されており、このうち、約9ヘクタールはゴミ焼却施設用地として平成17年3月31日に、約58ヘクタールは、自衛隊の覆道式射場及び訓練用地として平成18年10月31日に返還されている。残りの約43ヘクタールについては、まだ返還されていない。

<跡地利用計画>

これまで返還された土地は、ゴミ処理場、ダム用地、道路用地等に利用されている。その他、民間レベルでは、やちむんの里、食品工場、ゴルフ場及び大湾東区画整理事業などに利用されている。

・沖縄市

沖縄市の北部地域は、都市地域に隣接した中で農業生産が活発に営まれているとともに良好な自然環境が残り、都市に近在したオアシスとして親しまれているが、まちづくりにおいては地域の活性化が求められており、農業と市民との交流を結びつけた振興のため、平成10年3月「沖縄市アグリビジネス構想計画」が策定された。その後、更なる地域活性化に向けて平成20年9月「沖縄市新アグリビジネス計画」が策定されている。

また、老朽化により処理能力が低下した倉浜衛生施設組合（沖縄市、宜野湾市、北谷町）の新炉建設のため、平成17年3月に約9ヘクタールの土地が返還され、その後平成20年3月に造成工事が完了、同年8月から施設建設工事に着手し、平成22年4月から稼働している。

・読谷村

読谷村が、国道嘉手納バイパスの建設を促進するため、昭和62年に沖縄県軍用地転用促進・基地問題協議会を通して返還要望した国道58号西側部分の一部（19,000平方メートル）については、平成11年3月25日に返還が実現した。また、同村が都市計画道路久得・牧原線及び屋良・虎地原線整備事業のため、平成2年に同協議会を通して要望した施設南西隅（360,000平方メートル）及び国道東（390,000平方メートル）についても、平成11年3月25日に返還が実現し、久得・牧原線は、平成18年4月に供用が開始されている。

出典：「沖縄の米軍基地」（平成30年12月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

20.1.6 土地利用規制図

嘉手納弾薬庫地区及び周辺の土地利用規制図を図面集「[土地利用規制図B](#)」に示す。

20.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報

20.2.1 基地等の土地の状況

20.2.1.1 地形分類図

嘉手納弾薬庫地区及び周辺の地形分類図を図面集「[地形分類図B](#)」に示す。

20.2.1.2 表層地質図

嘉手納弾薬庫地区及び周辺の表層地質図を図面集「[表層地質図B](#)」に示す。

20.2.1.3 土壌図

嘉手納弾薬庫地区及び周辺の土壌図を図面集「[土壌図B](#)」に示す。

20.2.1.4 切盛土分布図

嘉手納弾薬庫地区の切盛土分布図は作成されていない。

20.2.2 基地内の施設の使用状況

20.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）

嘉手納弾薬庫地区の施設配置図は確認できなかった。

20.2.2.2 施設等使用履歴

昭和 20 年	米軍の占領と同時に使用開始。当初は、「嘉手納弾薬庫」、「比謝川サイト」、「波平弾薬庫」が建設され、その後「読谷合同廃弾処理場」、「陸軍サービス弾薬庫」、「知花弾薬庫」、「嘉手納タカン弾薬庫」、「嘉手納ボルタック弾薬庫」及び「東恩納弾薬庫」を建設。
昭和 46 年 6 月 30 日	沖縄返還協定了解覚書C表により、東恩納弾薬庫の一部約 947,000 m ² を返還。
昭和 47 年 5 月 15 日	9施設が統合され、「嘉手納弾薬庫地区」として提供開始。
昭和 51 年 8 月 31 日	南部弾薬庫及び那覇空軍・海軍補助施設の瀬長島所在海軍弾薬庫を移設。
昭和 51 年 11 月 30 日	第 15 回日米安保協合意用地約 62,000 m ² （嘉手納町久得）を返還。
昭和 52 年 1 月 27 日	保安柵として、工作物（困障）を追加提供。
昭和 52 年 3 月 10 日	弾薬庫施設として、建物約 1,500 m ² を追加提供。
昭和 52 年 4 月 30 日	暫定法適用の土地約 500 m ² を返還。
昭和 52 年 5 月 14 日	暫定法適用の土地約 58,000 m ² （沖縄市知花、読谷村比謝）を返還（読谷村については、第 15 回日米安保協合意の実施）。
昭和 52 年 9 月 30 日	第 15 回日米安保協合意用地約 125,000 m ² （読谷村親志、恩納村山田）を返還。
昭和 52 年 11 月 30 日	約 32,000 m ² （沖縄市知花）が返還され、自衛隊が使用。
昭和 53 年 1 月 30 日	読谷補助飛行場の一部返還に伴う代替施設として、犬舎等建物 486 m ² と工作物（境界柵）を追加提供。

昭和 53 年 3 月 31 日	第 15 回日米安保協合意用地約 1,579,000 m ² (読谷村座喜味、国道 58 号東側沿線) を返還。
昭和 53 年 10 月 1 日	施設管理権が陸軍から空軍へ移管。
昭和 53 年 10 月 19 日	貯蔵施設として、建物約 370 m ² と工作物(舗床、擁壁等)を追加提供。
昭和 54 年 3 月 22 日	事務所等として、建物約 490 m ² と工作物(給排水施設、囲障等)を追加提供。
昭和 55 年 12 月 15 日	暫定法適用の土地約 14,411 m ² (沖縄市知花) を返還。
昭和 56 年 12 月 3 日	下水道として、工作物(下水管)を追加提供。
昭和 57 年 5 月 15 日	暫定法適用の土地約 20,000 m ² (沖縄市知花) を返還。
昭和 58 年 3 月 31 日	瑞慶山ダム用地約 452,000 m ² (沖縄市、具志川市) を返還。
昭和 58 年 8 月 11 日	石油検査施設として、建物約 650 m ² を追加提供。
昭和 61 年 4 月 2 日	陸上自衛隊白川分屯地との等積交換用地として、約 440 m ² (沖縄市) を返還。
昭和 61 年 4 月 3 日	住宅用地として、土地約 400 m ² (沖縄市、上記土地の代替) を追加提供。
昭和 61 年 10 月 31 日	保安柵として、工作物(囲障)を追加提供。
昭和 62 年 2 月 5 日	家族住宅等として、建物約 29,000 m ² と工作物(囲障等)を追加提供。
昭和 62 年 8 月 31 日	沖縄自動車道用地約 78,100 m ² を返還。
昭和 62 年 9 月 18 日	道路用地として、土地約 210 m ² (石川市) を追加提供。
昭和 62 年 12 月 11 日	家族住宅として、建物約 4,200 m ² と工作物(下水等)を追加提供。
昭和 63 年 12 月 31 日	福祉工場(ランドリー)用地約 8,750 m ² (恩納村、国道 58 号西側) を返還。
平成元年 2 月 8 日	倉庫として、建物約 3,900 m ² と工作物(水道等)を追加提供。
平成元年 3 月 23 日	監視室等として、建物約 20 m ² と工作物(舗床等)を追加提供。
平成元年 6 月 1 日	機械室等として、建物約 260 m ² と工作物(舗床等)を追加提供。
平成 4 年 3 月 31 日	土地約 72 m ² を返還。
平成 4 年 5 月 14 日	第 15 回日米安保協合意用地約 1,928 m ² (国道 58 号、旧東恩納弾薬庫地区) を返還。
平成 5 年 9 月 27 日	保安柵として、工作物(囲障等)を追加提供。
平成 6 年 6 月 2 日	工場等として、建物約 3,200 m ² と工作物(水道等)を追加提供。
平成 7 年 10 月 5 日	弾薬庫用地として、土地約 2,600 m ² を追加提供。
平成 7 年 10 月 31 日	道路用地約 3,200 m ² (沖縄市) を返還。
平成 7 年 12 月 31 日	瑞慶山ダム用地約 753,000 m ² を返還。
平成 8 年 7 月 26 日	給油施設等として、工作物(給油施設等)を追加提供。
平成 9 年 3 月 27 日	倉庫として、建物約 8,400 m ² と工作物(照明装置等)を追加提供。
平成 11 年 3 月 25 日	嘉手納バイパス用地約 769,000 m ² を返還。
平成 11 年 7 月 15 日	諸標として、工作物(諸標)を追加提供。
平成 11 年 12 月 31 日	福祉工場施設(クリーニング工場)増設用地約 2,923 m ² (恩納村側) を返還。

平成 12 年 2 月 29 日	石川バイパス用地約 19,724 m ² を返還。
平成 12 年 10 月 31 日	諸標として、工作物（諸標）を追加提供。
平成 14 年 2 月 7 日	境界柵として、工作物（囲障等）を追加提供。
平成 14 年 12 月 12 日	揚水ポンプ室等として、建物約 80 m ² と工作物（門等）を追加提供。
平成 15 年 7 月 8 日	橋梁等として、工作物（橋梁等）を追加提供。
平成 15 年 8 月 28 日	弾薬庫として、建物等約 930 m ² と工作物（囲障等）を追加提供。
平成 15 年 12 月 31 日	県道 74 号線拡幅用地 7,154 m ² を返還。
平成 17 年 3 月 31 日	ごみ焼却施設用地約 89,975 m ² を返還。
平成 17 年 11 月 10 日	送油施設等として、工作物（送油管、舗床）を追加提供。
平成 18 年 5 月 31 日	読谷村道及びゴルフ場用地約 23,612 m ² を返還。
平成 18 年 10 月 31 日	自衛隊の覆道式射撃場及び訓練用地約 583,881 m ² を返還。
平成 19 年 3 月 29 日	境界標等として、工作物（境界標、保安壁等）を追加提供。
平成 19 年 4 月 26 日	通信線路として、工作物（通信線路）を追加提供。
平成 21 年 2 月 25 日	境界柵を追加提供。
平成 21 年 9 月 29 日	送油管等を追加提供。
平成 22 年 2 月 26 日	ゴルフ場施設として、建物約 2,600 m ² を追加提供。
平成 22 年 7 月 8 日	工場等として、建物約 910 m ² と工作物（囲障等）を追加提供。

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 30 年 12 月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

< 主要建物及び工作物 >

- 建 物：管理事務所、家庭住宅、検査室、弾薬補修工場、弾薬貯蔵庫、しょう舎、ポンプ室、浴室、消防署、クラブハウス、事務所、予備発電機室、便所、倉庫ほか
- 工作物：上下水道、保安柵、駐車場、消火設備、給油施設、調整池、浄化設備、貯槽、橋、運動施設、ゴルフ場ほか

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 30 年 12 月、沖縄県知事公室基地対策課）より引用

20.3 基地等の環境状況

20.3.1 自然環境（植物）

20.3.1.1 現存植生図

嘉手納弾薬庫地区及び周辺の現存植生図を図面集「[現存植生図B](#)」に示す。

20.3.1.2 植生自然度図

嘉手納弾薬庫地区及び周辺の植生自然度図を図面集「[植生自然度図B](#)」に示す。

20.3.1.3 特定植物群落

嘉手納弾薬庫地区及び周辺の特定植物群落を表 20-1 に示す。嘉手納弾薬庫地区及び周辺の特定植物群落として「サシジャー森のアカギ林」がある。

表 20-1 嘉手納弾薬庫地区及び周辺の特定植物群落

No.	名称	選定基準	相観区分	備考
1	サシジャー森のアカギ林	E	亜熱帯常緑広葉高木林	

◆ 特定植物群落の選定基準は以下のとおり。

A：原生林もしくはそれに近い自然林

B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群

C：比較的普通にみられるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる山地にみられる植物群落または個体群

D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの

E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの

F：過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても長期にわたって伐採等の手が入っていないもの

G：乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群

H：その他学術上重要な植物群落または個体群

出典：「自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（平成 12 年 3 月、環境庁自然保護局生物多様性センター）を参照

20.3.1.4 重要な種、貴重な種等

嘉手納弾薬庫地区のある恩納村、うるま市、読谷村、嘉手納町及び沖縄市のうち、沖縄市で確認された重要な種、貴重な種等（植物）は74種類ある。

出典：「沖縄市史 第四巻 自然・地理・考古編 -自然編-」（2007、沖縄市総務部総務課）を参照

20.3.2 自然環境（動物）

20.3.2.1 重要な種、貴重な種等

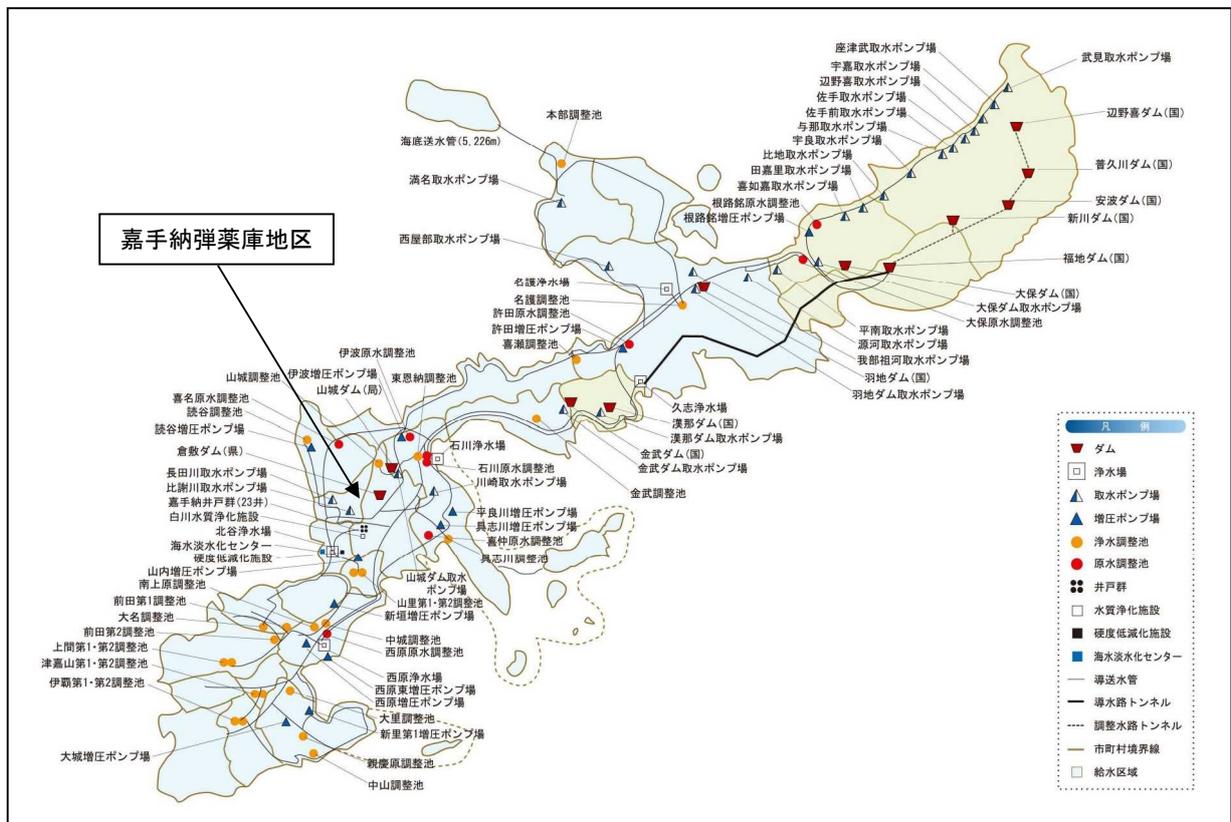
嘉手納弾薬庫地区のある恩納村、うるま市、読谷村、嘉手納町及び沖縄市のうち、恩納村、うるま市、読谷村及び嘉手納町で生息が確認された又は生息が可能或いは推定される重要な種、貴重な種等（動物）は50種類、沖縄市で生息が確認された重要な種、貴重な種等（動物）は102種類いる。

出典：「自然環境の保全に関する指針 [沖縄島編]」（平成10年2月、沖縄県環境保健部自然保護課）、
「沖縄市史 第四巻 自然・地理・考古編 -自然編-」（2007、沖縄市総務部総務課）を参照

20.3.3 水利用状況

20.3.3.1 水利用状況

沖縄県企業局による、沖縄島及び周辺の水利用状況を図20-4に示す。

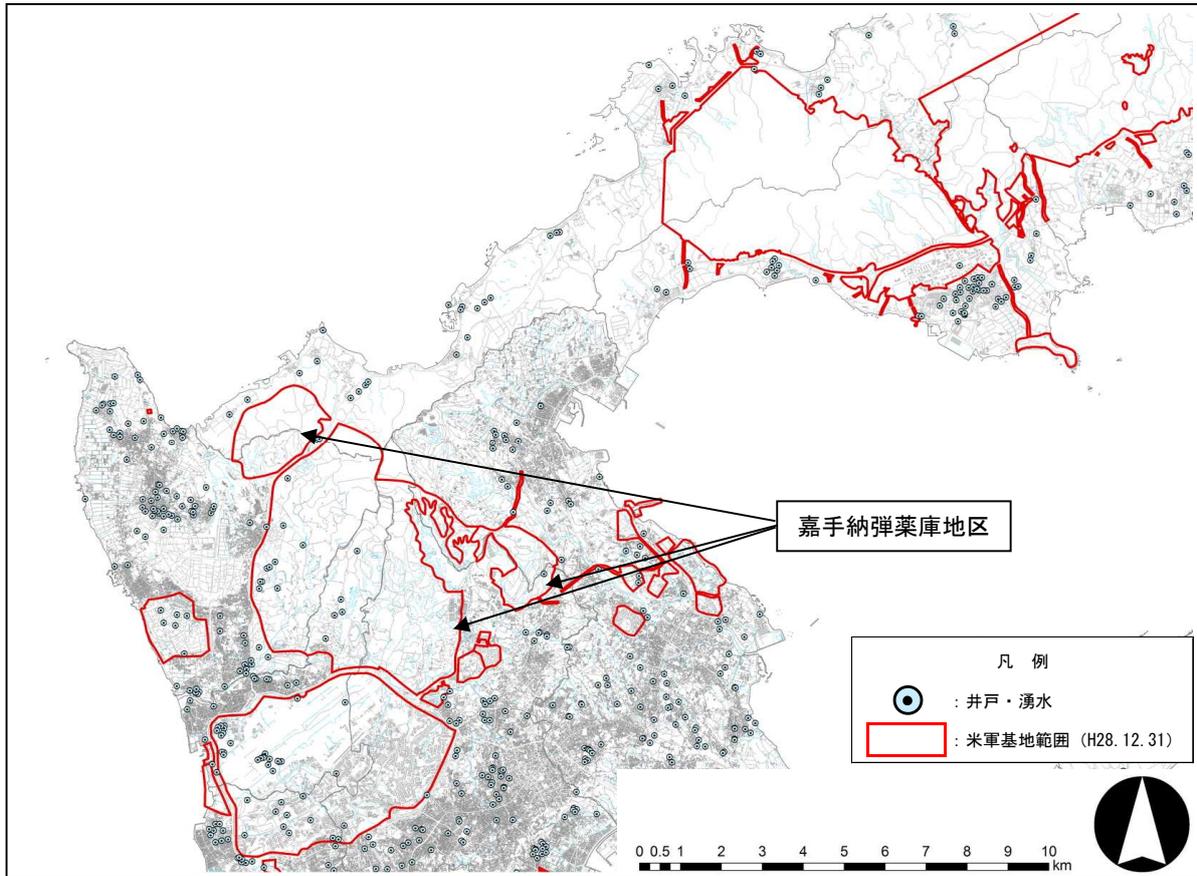


出典：「2015<平成26年度決算版> 環境報告書」（平成28年3月、沖縄県企業局配水管理課）を参照

図20-4 沖縄島及び周辺の水利用状況

20.3.3.2 井戸・湧水の分布状況

嘉手納弾薬庫地区及び周辺の井戸・湧水分布状況を図 20-5 に示す。



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。(承認番号 平成29情使、第269号)」

注：本図には、史書等より情報を得た井戸・湧水の位置も示されていることから、その存在や状態については、活用者が確認する必要がある。

出典：別途記載

図 20-5 嘉手納弾薬庫地区及び周辺の井戸・湧水分布状況

20.3.3.3 河川及びダム分布状況

嘉手納弾薬庫地区及び周辺の河川、ダム分布状況及びその概要を図 20-6、表 20-2 及び表 20-3 に示す。嘉手納弾薬庫地区及び周辺には、二級河川が 2 本、ダムが 1 つある。



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平成 29 情複、第 301 号）」
 出典：「国土地理院地図（平成 29 年 3 月）」、「国土数値情報のデータ（河川情報）」、
 「沖縄防衛局管内防衛施設図（米軍基地範囲）」（平成 28 年 12 月 31 日現在、沖縄防衛局）を参照
 図 20-6 嘉手納弾薬庫地区及び周辺の河川、ダム分布状況

表 20-2 嘉手納弾薬庫地区及び周辺の二級河川の概要

比謝川水系	比謝川	指定延長：15,932m	流域面積：49.66km ²
指定区間：（左岸）沖縄市字胡屋 5 丁目 355 番 3 から海に至る （右岸）沖縄市字胡屋 5 丁目 355 番 3 から海に至る			
比謝川水系	与那原川	指定延長：6,450m	流域面積：8.79km ²
指定区間：（左岸）うるま市石川山城 1563-45 番地先から比謝川合流点まで （右岸）沖縄市字倉敷 304-6 番地先から比謝川合流点まで			

出典：沖縄県ホームページ「沖縄の河川資料室」

(<http://www.pref.okinawa.jp/site/doboku/kasen/kanri/okinawanokasensiryousitu.html> (平成 28 年 8 月 23 日閲覧) を参照

表 20-3 嘉手納弾薬庫及び周辺のダムの概要

名称：(県)倉敷ダム	所在地：沖縄県うるま市石川楚南	
河川：比謝川水系与那原川	ダム湖名：倉敷湖	型式：ゾーン型ロックフィルダム
集水面積：4.7km ²	貯水池面積：0.77km ²	目的：F/N/W

◆ 目的の凡例 F：洪水調節、N：流水の正常な機能の維持、W：水道用水、I：工業用水、A：特定かんがい用水

出典：沖縄県ホームページ「沖縄県ダム一覧」

(<http://www.pref.okinawa.jp/site/doboku/damu/kanri/ken-damu.html>、平成 29 年 2 月 2 日閲覧) を参照

20.3.4 地下水の状況

20.3.4.1 地下水基盤面等高線図

嘉手納弾薬庫地区及び周辺の地下水基盤面等高線図を図面集「[地下水基盤面等高線図B](#)」に示す。

20.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等

20.4.1 事故等の概要

嘉手納弾薬庫地区及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等の概要を表 20-4 に示す。嘉手納弾薬庫地区及び周辺では、ガス漏れによる被害、油流出、爆発事故などが確認された。

表 20-4 嘉手納弾薬庫地区及び周辺における環境関連事故等の概要

発生年月日	発生場所	概要	備考
昭和 47 年 6 月 26 日	沖縄市	旧知花弾薬庫で、CS 剤の袋を運搬作業中にその袋の一部を破損したためガスが漏れ、米兵数人と日本人従業員 1 人が被害を受けた。	ガス漏れによる被害
昭和 47 年 11 月 7 日	沖縄市	旧知花弾薬庫で草刈り作業のためクレーダーを操作中、CS 剤の入った袋を破損したため、ガスが漏れ日本人従業員 2 人が被害を受けた。	ガス漏れによる被害
昭和 48 年 1 月 11 日	読谷村 (座喜味、喜名、伊良皆、古堅)	旧読谷合同廃弾処理場において、CS-1 剤が中和作業中に漏れたため、授業中の読谷高校等、広範囲にわたる数十人の住民が眼、鼻、のどの痛みを訴える被害を受けた。	ガス漏れによる被害
昭和 50 年 7 月 9 日	嘉手納町	旧知花弾薬庫地域の廃弾保存庫内で爆発事故が発生し、建物が吹き飛ばされ、付近約 100m 四方に破片が飛散した。この爆発で火災が起り、付近の原野が翌未明まで燃え続けた。	爆発事故
昭和 53 年 5 月	読谷村	基地内の工事等によって降雨時に赤土が流出し、比謝川から残波岬まで広範囲に汚染された。	赤土流出
昭和 58 年 4 月 1 日	嘉手納町	県道 74 号線沿いの嘉手納弾薬庫地区内で、廃棄物を土で埋める作業をしていた米軍のブルドーザーが下水道管を破損。	下水道管破損
平成 6 年 4 月 4 日	嘉手納弾薬庫地区内	第 18 航空団第 44 戦闘中隊所属の F-15C 戦闘機が、離陸直後に嘉手納弾薬庫地区内の黙認耕作地に墜落、炎上した。乗員は脱出。	墜落
平成 8 年 8 月 19 日頃	沖縄市 (白川)	沖縄市白川の嘉手納弾薬庫地区内の黙認耕作地で、米軍管理のマンホールから汚水が流出した。	汚水流出

発生年月日	発生場所	概要	備考
平成 10 年 8 月 12 日	嘉手納町	嘉手納弾薬庫内の黙認耕作地に埋設されている排水パイプが破裂し、汚水が流れ出ているのが確認された。大雨により土砂が崩れたことにより配水管が破裂したのが原因。	汚水流出
平成 12 年 1 月 5 日	沖縄市	知花住宅地区のボイラー室から油が漏れて比謝川へ流れ出る。油流出事故により企業局の比謝川ポンプ場で取水が 1 月 5 日午後 8 時から翌 6 日午後 2 時まで 18 時間停止された。取水再開にあたって企業局では活性炭を注入した。	油流出
平成 14 年 12 月 9 日	嘉手納弾薬庫 地区内	泡瀬ゴルフ場の移設先である嘉手納弾薬庫地区において、文化財の調査中に、ケースに入った機関銃弾 1 ケース（200 発）が発見された。	機関銃弾発見
平成 22 年 12 月 22 日	嘉手納町	嘉手納弾薬庫地区でジェット燃料 40 ガロン（約 151.4 リットル）が流出し、うち 10 ガロン（約 37.9 リットル）が比謝川に流出した。	燃料漏れ
平成 23 年 8 月 6 日	嘉手納弾薬庫 地区内	台風 9 号の大雨による冠水で、嘉手納弾薬庫地区内にあるディーゼル発電機用の燃料タンク内に雨水が流入し、タンク内に残留していたディーゼル燃料が流出した。流出量は不明。	油流出
平成 24 年 3 月 21 日	嘉手納町	嘉手納弾薬庫地区内にある現在使用されていない容量 300 ガロン（1,140 リットル）のタンクから、ディーゼル燃料約 30 ガロン（114 リットル）が流出しているのが明らかとなった。	油流出
平成 25 年 11 月 5 日	嘉手納町	嘉手納弾薬庫地区内で地下道を走行中のフォークリフトが地下道上部接触事故を起こし、約 5 ガロン（約 19 リットル）から約 20 ガロン（約 76 リットル）のオイル漏れが発生し、雨水配水管に流出した。	油流出

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 15 年 3 月、沖縄県基地対策室）、
「沖縄の米軍基地」（平成 25 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）
「沖縄の米軍基地」（平成 30 年 12 月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

20.4.2 事故等発生場所

嘉手納弾薬庫地区及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等発生場所の情報は確認できなかった。

20.5 環境調査を実施する場合の留意事項

嘉手納弾薬庫地区において、基地内施設の使用状況及び配置等の基礎的な情報が詳細に把握できていないことから、当該施設の使用状況を踏まえて、環境調査の際には下記の事項に留意する。

- 1 地区内に遺棄弾の存在が懸念されることから、環境調査を行う前に安全性を確認する必要がある。
- 2 弾薬庫が存在することから、弾薬や化学薬品による土壌及び地下水汚染調査を行う。
- 3 補修工場等が存在することから、有機溶剤、洗浄剤及び廃油等による汚染が懸念されるため、施設周辺の土壌及び地下水汚染について調査を行う。
- 5 貯油タンクが存在することから、土壌及び地下水汚染調査を行い、顕著な汚染が確認された場合は地質調査（ボーリング調査等）を実施する。

6 実態把握のため、野生動植物の生息・生育調査を行う必要がある。

20.6 その他情報

沖縄県が、米国立公文書記録管理局（National Archives and Records Administration, NARA）（以下「NARA」という。）で収集した在日米軍関係資料のうち、嘉手納弾薬庫地区及び周辺に関する環境関連情報の概要を表 20-5 に示す。

嘉手納弾薬庫地区及び周辺については、以下の資料が確認された。

表 20-5 嘉手納弾薬庫地区及び周辺に関する環境関連情報の概要（NARA 収蔵）

年月日	場所	資料の種類	概要
1966年 8月19日	—	文書	米軍関係者による沖縄の視察関係資料。知花、辺野古等を視察することが記されており、知花では第2ロジスティクス司令部と第196兵器部隊より説明を受けたとされている。その中でプロジェクト112についても説明を受けたとされている。
1960年 5月24日	ホーク・サイト、弾薬庫、航空隊の団弾薬庫	文書	ホーク・サイト決定に関する資料。ホーク・サイト設置場所を知花弾薬庫エリアに決定したと記されている。また、中部地区の各軍の弾薬庫エリアが図示されている。
1957年 5月11日	武器処理場（Demolition site）、武器工場内	文書	武器の宣伝に関する資料。知花弾薬庫での小型武器の確認や榴弾砲（M107 155mm high explosive）の運搬作業などの写真が掲載されている。
1969年 8月18日	—	文書	沖縄にある化学兵器の撤去について、世界各地の司令官に照会し、その結果を統合参謀本部に報告した文書。
1969年 12月1日	—	文書	レッドハット作戦に関する資料。陸軍省が1961年から沖縄に有毒化学兵器の保管を認可していること、及びその兵器の移送計画が、1969年12月から1970年春に5回に渡って行われることが記載されている。
1971年 1月10日	—	写真	レッドハット作戦に関する資料。第267化学部隊が、150トンの化学兵器をジョンストン島に移送するため、知花弾薬庫から天願棧橋への輸送準備を行ったことが記されている。第2ロジスティクス司令部配下の第196兵器部隊の看板の写真が掲載されている。
1971年 1月10日	—	写真	レッドハット作戦に関する資料。第267化学部隊による知花弾薬庫での化学兵器の積荷作業を撮影した写真。
1971年 1月14日	—	写真	レッドハット作戦に関する資料。知花弾薬庫の第2ロジスティック司令部の看板を撮影した写真。
1971年 1月10日	化学兵器庫 1828号	写真	レッドハット作戦に関する資料。知花弾薬庫の第267化学部隊による、天願棧橋への150トンの化学弾薬の移送の準備状況やパトロール状況を撮影した写真が掲載されている。ブチルスーツを着た第267化学部隊の隊員は、GBガス（サリンガス）漏れを検知するため、化学兵器庫1828号でウサギを使った。

年月日	場所	資料の種類	概要
1971年 7月12日 7月15日 7月16日 7月17日 9月7日	—	写真	レッドハット作戦に関する資料。知花弾薬庫のレッドハット・エリアの作業状況を示す写真。積み込み作業やに積まれた神経ガスを点検や神経ガスカニスターをトラックに積み込む状況を撮影した写真。
1971年 7月13日	—	図	レッドハット作戦で使用するルートの地図。
1955年 8月11日	—	写真	知花弾薬庫での演習で、ブルドーザーで火を消す Beetle Tank と呼ばれる戦車を撮影した写真。
1955年 7月21日	—	写真	不発弾を知花にある第5爆弾処理部隊の爆弾処理場に移送する前に調査している状況を撮影した写真。第5爆弾処理部隊の爆弾処理場は、知花弾薬庫にあったことが記されている。
1969年 2月11日 2月18日	弾薬庫	写真	ベトナムから戻された迫撃砲弾の保管、検査、修理作業を知花弾薬庫で行う状況を撮影した写真。
1969年 2月11日 2月18日	弾薬庫	写真	知花弾薬庫の小型武器用の弾薬庫を撮影した写真。
1969年 2月11日 2月18日	弾薬庫	写真	知花弾薬庫の地上にあるコンクリートの5つの弾薬庫の一つを撮影した写真。
1969年 7月8日	弾薬貯蔵所 (Ammunition Storage Depot)	文書	化学物質による事故に関する資料。第267化学部隊が知花での定期メンテナンス中、兵器の一つから少量のGBガスが漏出し、兵士及び民間人合わせて24名が軽いガス中毒の症状を示したと記されている。
1969年 7月11日	知花500 area	文書	1969年度第4四半期のプログラム報告書。第267化学部隊(267th Chemical Co)が、瑞慶覧491ビルから知花のエリア500に移転したことが記されている。
1969年 7月18日	—	文書	1969年7月18日付ウォール・ストリート・ジャーナルの記事。在沖米軍基地内で起きたVXガス漏れ事故について記されている。
1970年 5月	知花502ビル	文書	第2兵站部の活動をまとめた資料。第267化学部隊の放射性物質処理施設 [The 267th Chemical Company RMDF (Radiological Material Disposal Facility)] が、知花の502ビルからレッドハット・エリアの1706ビルに移動したことが記されている。
1991年 3月22日	LABORATORY 53140、 PAINT LOCKER5318 5	図	米国陸軍第505燃料補給大隊の施設配置図。

20.7 環境等に関する通常監視について

嘉手納弾薬庫地区及び周辺において、沖縄県による環境等に関する通常監視は行われていない。

出典：「昭和51年度版 環境白書」（1977、沖縄県）、

「昭和53～平成16年版 環境白書（昭和52～平成15年度年次報告）」（1978～2005、沖縄県）、

「環境白書【平成16～26年度報告】」（2006～2016、沖縄県）を参照